斗争ニュース

No.3

坂井発動キ製作所争ギ団
（[illegible]）
1935.5.4

争議団の結束 鉄の如く強固！ 必勝の意気高し

坂井の血迷ひ振り

坂井工場にカン詰にされてゐる残り二十余名の少年工は仕事について居るのではなく寄宿舎に不法監禁されてゐる。暴力団の十数名は寝室に頑張って交互に不寝番で見張り寄宿舎に床屋を呼び寄せて理髪をさせ、又は暴力団の附添で理髪にやるといふ暴虐振である。

区民諸彦に批判を乞ふ迄町内に配布する

堀切町にある堀切園は五月一日から開園されて花菖蒲を見る人々が押しかけて町の人気を湧かすことになるが坂井工場のストライキのために甚しくこの人気を阻害し、甚しい他工場にでも飛火する場合は一層この傾向を助長し町内の空気を悪化するものとして一日も早く坂井工場主が責任を以て解決すべきであるとして町内有志の間に反坂井の非難の声が益々高まりつゝある。争議団本部ではこの形勢を看取し区民諸彦に批判を乞ふとのビラを全町民に配布して坂井の非国民的非人道的なあらゆる罪悪をバクロした

[illegible]家の[illegible]活動

連日福島及茨城の徒弟さんの父親らに虚偽の電報を打って却って坂井工場の化けの皮と罪悪の上塗りをした。如ち五月三日に徒弟さんの父で秋田から争ギ団本部に来た人がある。坂井工場ではこの父親にも「コウシロウマチガヒアリスグコイサカイ」とい電報を打ったのだ。

父親は息子のことを争ギ団に一任す

処がそのあとに直ぐ争ギ団と徒弟さんからの手紙が着いたので真相がすっかり分ってしまった。そこで父親は大いに坂井の悪淀きフンガイして却って自分の息子のことは一切争ギ団に委任しあくまで戦ひと争ギ団をゲキレイし金十円也を寄附した。その外に今坂井工場に鑵詰にされてゐる徒弟の中四名の父親は之の父親の知合であるから四名に対する委任状を書かせて争ギ団に送らせると約束した。

この父親は坂井工場の寄宿舎を見て驚いてしまった。

百聞は一見に如かずとこの父親は早速坂井工場の徒弟の寄宿舎といふものを視察に行った。そこで驚いた父親の言葉は之れだ「あれは豚小屋ですか？ 鶏小屋ですか？ 東京にあんな寄宿舎があるのですか？ 坂井工場とは名ばかりで監獄部屋ではないか俺の息子はあんな処におけないと」息子から今まで二年一ヶ月もの苦しみ虐待の実情を聞いて互に抱き合ひその無事なるを泣き喜ぶといふ小劇的場面であった。それから争ギ団の徒弟さん達はこの父親の情け深い慰めとあくまで戦って[illegible]最後の一人

[illegible]行して行く

これ等諸事実は来るべき坂井工場争議演説会によって更に明るみにさらけ出されることとなるだらう。

(四) 徒弟の信書を全部開封し若くは破棄することについて。

かく言ふても信ずる人はないであらう、それは無理もないことだが然しそれは事実であるから仕方がない。何といふことであらう。現に争ギ団員の凡てはこの恐る可き暴戻に悩まされてゐるのだ。開封して見坂井工場にとって都合の悪いことでなければ本人に渡すが不利益であれば渡さずにそのまま破キする。これは立派に信書の秘密を犯すものとして刑事上の責を負はなければならぬ。